



写真に見る

1115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

田上峠の茶屋

□ 30 □

外国人客でにぎわった要衝

明治30年代、茂木新道田上峠の茶屋である。茂木村（現長崎市茂木町）は長崎市浜町の東南約8キロの場所にあった。長崎の裏玄関である港町の茂木へ行くには、長崎半島の付け根の尾根を越える必要がある。茂木への要路田上峠は茂木口といわれ、この尾根の峠の場所が田上であり、途中の休息をとるために茶屋ができた。

左の木に掛けられた看板は「WELCOME MA TUBARA SHIMA TEA HOUSE」と読める。ここは松原シマが

経営する松原茶屋である。道路の上に2カ所、木の柱に竹で編んだ屋根を載せた日よけが設けられている。旅人を茶屋の衣服に誘う仕掛けである。

その下の看板には「TEA HOUSE KAJI HARA SADA TA GAMU」とある。梶原サダが経営する田上の梶原茶屋である。英語の看板から、外国人旅行者が多かったことがうかがえる。

松原茶屋の前には休息用のパンコが並べられ、足を洗うためか金盥と木桶が置かれている。屋内には、ガラスのコップが並べられている。藁ぶきから、瓦ぶきに変わった軒の樋は亜鉛メッキのトタンとなり、垂直の樋には竹がくりぬかれて使われている。田上の茶屋名物は蕎麦とタケノコ飯と青餅であった。

道路の奥には、完成したばかりの長崎方面からの切通しを抜けて峠に上がってきた荷馬車が写っている。長崎県は明治18（1885）年に茂木古道を拡幅し、人力車や荷馬車が通れる茂木新道の開削に着手した。明治20年に開通し、6月25日に茂木村田上名で開通式が

松原茶屋の軒先にもパンコが並ぶ。右の柱には草鞋が吊るされている。当時の旅人の足回りは足袋に草鞋履きであった。

ちなみにゴム長靴は明治38（1905）年にアメリカから初めて輸入され、ゴム履物の国産化は明治41年の三田十護謨合資会社（後の昭和ゴム）による。久留米の石橋徳次郎が足袋の裏にゴムを張る地下足袋を発明したのは大正12（1923）年のこと。竹下写真館はこの写真を絵はがきにして売り出している。

（長崎外国語大学長）
この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（http://www.nagasaki-igo.ac.jp/recnas/newspaper/）で見ることができます。



のるに大
ページで
できる
QRコード
長崎外国語
ホーム
ページ
QR

随時掲載します